京都教区時報

第118号
田中司教認可
毎月1日発行

発行　京都司教区　　発行責任者　村上透磨
編集　京都カトリック教理センター　住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入　Tel 761-9095

1987年　新春放談

新年を心よりお慶び申し上げます

アジア世界平和祈祷集会にて('86.10.29)

“福音の招きに応える共同体をめざして”

京都教区司教　ライムンド 田中健一

人類の地上での歩みは個人、全体を問わず十字架の道だと思います。'86年を振り返って見ても教区内の教会・施設で起った諸問題をすぐ思い出します。国の内外にあっても比島政変、抑圧、飢餓貧困、疾病差別、など社会、経済、軍事、政治等の各分野において不安が極度に増しています。

でも自分の体が自由に動く事がゆるされている時は、まだましでしょうか。そうでなくなる時、涙の谷は失望以下に沈んでしまうと思います。

この現実にあって「救い主誕生」のよき知らせは、信仰の恵みを頂いている者にとって大きな支え、希望、力であると思います。救い主のご生涯の蔭にかくされている贖いのみ業（十字架・復活）を回心と感謝の心をこめて、かみしめさせて頂きたいと思います。

新しい年を迎える恵みの区切点に当って、この信仰を一層深めさせて頂き、人間的次元のみではなく、神的次元にも招かれている私たちの毎日の歩みを、どんな時も、希望と愛の心で主と共に、仲間と共に前進させて頂きたいと思います。

'87年は、京都教区創立50周年、第一回「福音宣教推進全国大会」（於京都）、アシジに続く比叡山宗教サミット（俗称）、世界司教代表者会議（シノドス）その他沢山の行事が待ちかまえております。お祭り気分ではなく、世界の大きな福音的流れに沿って取り組んで頂きたく思います。又取り組んで下さっている方々が多い事をうれしく思っております。

国連は「家なき人々に住いを」という年に定めていると伺っています。その信じる内容を異にしながらもすべての善意の人々と福音の心で、毎日を、すべての出来事を、痛みを感じ乍らも大きな信頼をもって福音の招きに応えようとする共同体になりたいものです。

司祭評議会定例会議報告

'86年9月29日

報告事項

●FABC（アジア司教会議）について
●PIPE（大阪管区司祭研修黙想会）について
●宣教司牧評常任委員からの報告
●NICE'87会場準備委員会（仮称）メンバーとして、司祭評より東門師を任命。
●京都教区創立50周年実行委員会ポスター・シンボルマークの応募数は、ポスター79点、シンボルマーク72点でした。今後、専門のデザイナーの意見をうかがって12月中に印刷、来年1月配布予定です。

審議事項

(1)NICE'87の代表者の選出
各グループで討議し、次回決定。代表者は5名。なお、選出にあたっては①教区付、宣教会、修道会別　②地域別　③年齢別　④仕事別を考慮して下さい。

(2)カトリック新聞の記事について
指紋押捺拒否に関するカトリック新聞の記事について、カトリック新聞が日本司教団の公報紙でありながら、広告料を支払っての意見広告しか出せないという矛盾があること。紙上声欄で、法務省の発言と同じ意見を掲載し、投書末尾に「このほか電話でも同様の意見が…」と今まで書かれていないコメントを付けている姿勢の問題を、司教団と新聞社に抗議文か公開質問状を送付してほしいとの西野氏より提案があった。意見の交換がされたが、紙面でも意見が載せられていることから、司祭評では特別何もしないことになりました。しかし指紋押捺問題に関しては、教区のビジョン、司教団の基本方針と優先課題にそって真剣に取り組んでいく必要性がのべられました。

(3)NICE'87の課題設定
各グループより課題が出されましたが、討議する時間の余裕がありませんので、東門師、越知師、大塚師の3名の特別委員会で討議し、10の課題を選んでもらうことになりました。それについて、あらためて各評議員に意見を聞くことになりました。

司教の足どり

9月
1～5日 大阪教会管区司祭研修会（関西セミナーハウス・二田）
村上透一氏見舞。Vと電連
7日(日) 河原町ミサ
8日 京南司祭集会。アシジ祈祷会
随行実務者会（二条）。Vと電連
9日 ローマ報告（アシジ・比叡）
11日 小さき花幼改築祝別（報恩寺）
12日 聖母の家学園理事・評議員会（於海星）
13日 FABC Bps有志と夕食会。その間文化史跡案内
14日 聖書が好きになる講座修了派遣ミサ
16～24日 第四回FABC（アジア司教協連盟）総会（於東京）
25日 駐韓V大使・FABC Bps有志来洛
27日 50周年準備委員会
29日 司祭評議会

11月
2～7日 FABC（アジア司教協連盟・諸宗教研修会・於香港）
8日 アシジ・HKより無事帰国
11日 駐日V大師名代Mgrウエソロウスキー師来泊
12日 同参事官、中外日報90周年式典に参加。この間、奈良・京都の文化史跡を見学
13日 同参事官帰東京。比叡山宗教サミット準備会（新都H）。ナイス京都準備会（二条）
14日 田辺聖愛幼30周年式典
15日 教区50周年準備実行委
16日(日) ウチタ聖ヨゼフ黙想の家祝別
17日 京南司祭月例会。故トム・オカナー師追悼ミサ（二条・教区・MM管区共催）
18日 母を見舞う（聖マルチン）
20日 フォンソ師と面談。K教会有志団と外登法で面談
21日 聖母の家学園理事会（二重）
23日(日) 親族代表と昼食。K教会訪問
Bp.マンサプ（タイ・ウボン）
24日 G師のための作業
25日 宗教記者会見。教区内管区長会議（ウチタ）。MM創立75周年感謝ミサ（二条）
26日 Bp.マンサプ離日。共同通信
27日 OMD来訪
28日 教区幼稚園々長会議。竹中教授来訪。ナイス準備委
29日 奥村師来訪（諸宗教霊性交流）
司牧評総会
30日(日) 同右。南信協壮年部

10月の司教の足どりにつきましては先月号でお知らせ致しました。順序が逆になりましたことを、お詫び申し上げます。

京都教区創立50周年
ポスター・シンボルマーク決定

応募点数　ポスター79点、シンボルマーク72点の中から下記のとおり教区創立50周年のポスターとシンボルマークが決定しました。現在これをもとに作成中です。皆さまご協力本当にありがとうございました。（教区創立50周年実行委員会）

シンボルマーク

西陣教会
松田　熙　さん

人物が十字架をささげる形をデザイン。50周年に向けての未来発展を象徴。全体の形は十字架を上にした球体とし教会を意味する。

ポスター

子供の部　伊勢教会
村上しゅのちゃん（小1）
岩崎あいちゃん（小1）合作

大人の部　福知山教会
由良　昭　さん

緊急

鏡の中の自分を見て
「お前は犯罪者ではないのだ」と
言いきかせた
ヘスス・アルフォンソ
ガレロン神父

私はより明るい日本
みな互いに尊敬し合い
どんな差別もない日本
のために指紋押捺を拒
否しました。
私は日本を愛しています。
日本人とともに生きていきたい。
今までより、今から日本
のために働きたいと思っています。

指紋押捺拒否をしているガレロン神父の
国外強制退去をゆるすな!!

—皆さん 御参加下さい—

アルフォンソ神父さまを支援する話し合い

日時　第1土曜日 PM7:00～　第3日曜日 AM11:00～
場所　小山教会　※詳細は小山教会 ☎075-491-1877まで

ナイス'87（福音宣教推進全国会議）課題案10項目決まる

宣教司牧評議会

7月6日、東京雙葉学園で、ナイス説明会が開かれ、その席で、公聴会記録（これを一応生資料と呼んでいる）が手渡され、これに基いて各教区で10の課題を選び、11月15日までに提出するように、との要望があった。

なお、公聴会記録とは、大阪・東京・福岡・鹿児島で行われた信徒代表者達による討議の報告書である。

この記録はぼう大なもので、教区ではナイス準備委員会事務局が、教区ビジョンの六つの課題に従って縮小版を作成し、これを各方面で10の課題を選び10月15日までに提出するよう依頼した。

提出された課題は信徒協、修女連、司祭評、それに四つの活動団体からなる70の課題が選ばれた。最終決定はやはり司牧評ですべきだと考え、11月1日と2日、10の課題選定のためだけの臨時評議会を開催し、その結果13の課題にしぼられた。これを10にまとめるのはナイス事務局に託ねられ、その結果がここに報告するような内容である。課題の出し方、提出の動機は、事務局のまとめによる。

まとめがまとめを呼んで内容がうすれて行く事、果して生資料と呼ばれる程、これが信徒の生の声なのか、いろんな問題を残している事は否めない。

京都教区課題案10項目と提出理由要約

1教会共同体の福音化

信仰共同体ということばは頻繁に使われているが、それがどういうものなのか、どうあるべきなのか共通理解のないままに使われているきらいがある。そこで、福音に照らして、信仰共同体とは何か、何をなすべきかを考え、皆にわかりやすい形で示すと共に教会が真の信仰共同体となるための努力をすることが必要とされている。

2小教区共同体の福音化

信仰共同体としての小教区の現在のあり方は果して現在の社会に適当なものだろうか。適当であるとしても司祭と信徒との関係、役割分担は適切であると言えるであろうか。信徒がよろこびをもって参加できる共同体になっているだろうか。今は、司祭、信徒ひとりひとりが真に出会うことのできる生き生きとした、苦しんでいる人とのより所となる小教区にしていくことが求められているのではなかろうか。

3社会の現実を学ぶ教会

社会の中には不正、抑圧、差別のきびしい現実があり、多くの人々が人権をふみにじられている。また教会内部にも根深い差別体質があり、社会の諸問題にも冷淡である。しかし、この社会の中にこそ教会は立っているのである。

4社会に関わっていく教会（「小さい人々」と共にある教会）

社会に開かれ、社会が持つあらゆる問題、特に弱い立場におかれている人々の問題を自らの課題としていく教会でなければならない。

5みことばに耳を傾ける教会

現代社会の必要や、現実が抱えている問題点を絶えず認識し、生活の場や職場を福音化していくために聖書に親しみ、みことばを聴くことが大切である。

6祈りと生活とが統合されたキリスト者

祈りの本質を学び、みことばに親しみ、あらゆる生活の場が祈りとなるようキリスト者養成のプログラムを整え、成長をはかる。

7たえず自己刷新を求めるキリスト者

養成プログラムをつくって個人として、共同体として刷新、成長をはかる。

8日本文化の福音的要素を取り入れ地域社会と共にある教会

教会が人々の生活の場で信徒以外の人々にとっても親しみやすく、なじみ深いものとなるために、日本文化の中にすでにある福音的な習慣を積極的に取り入れていくことが必要。

9みことばをわかりやすく語り、社会にあって地の塩となる教会

教会用語が全般において理解しがたく、人々に通じる言葉で「みことば」を語る試みをする必要がある。

10課題を実現するための教会組織の再編成

福音宣教をするため、また福音宣教共同体として生きるために現状の組織や制度がかえって幣害となっている場合が多い。

'86年平和への歩み学習会報告と感想

講演　宗教と部落問題

中川 喜代子氏（奈良教育大教授）

佐野 明

「キリスト者にとって、部落問題とは、なんなのだろう」

講演は、私たち信者にこんな問いを投げかけた。

中川教授は、こう述べられている。

日本人は「恥の文化」といわれるように、世間の考えに動かされやすい。差別よりも、愛情と信頼が大切であるという世論が大半を占めるようになれば、乗り遅れまいと、きっとその意識を変えるはずです。

そして、愛と信頼とは、あなた方キリスト者が最も大切にされていることです。だからキリスト信者の方々から、こういう世論を起こしていただきたい。

私たちにとって、実に大きな宿題が与えられた。

人種差別を扱った有吉佐和子の小説「非色」にこんな一節がある。

「金持ちは貧乏人を軽んじ、頭のいいものは悪い人間を馬鹿にする。要領の悪い男は才子を薄っぺらだといい、美人は不器量ものを憐れみ、インテリは学歴のないものを軽蔑する。人間は誰でも自分よりなんらかの形で以下のものを設定し、よれによって自分をより優れていると思いたいのではないか。それでなければ落着かない。それでなければ生きていけないのではないか」

人間の心の奥底をズバリとついている。私たちは差別を憎む心と同時に、こんな弱さも持ちあわせているのではなかろうか。「原罪」とでもいうべき……。

人が人を差別しない——これは口でいうほど簡単なことではない。

自らの差別心を、じっと見つめてみる。部落問題に取り組むことは、こんなことをさせてくれる。その意味において、部落問題と信仰生活は決して、別のものではないと思う。

（奈良教会）

語って下さい

パン狩

愛がふくらむ

原子力発電所を見学して

小学校六年　福沢 早知子

10月10日に、敦賀原子力発電所に行きました。マイクロバスの中で、「ぬかみその会」の会長さんは、原子力発電所について説明をしてくれました。それを聞いて私は、「原子力発電って、悪いんだな」って思いました。

もし、原子力発電所が、故障したり、こわれた時には、道路がしゃ断され、人や車の通行が止められるので、発電所の人も、回りに住んでいる人も、かわいそうです。

原子力発電所で働く人は、放射能もれをふせぐため、チェックばっかりで、出入りが大変だし、お手洗に行くのにも、チェックや服の着がえのために、30分～40分もかかるそうです。だから、しんどいんだなぁーって思います。

でも、PR館では、ゲームや、模型、ビデオでの説明があり、とてもたのしく、そしてきれいでした。

新しく作られている原子力発電所も見ました。ふつうの原子力発電所より、何倍もすごい力だと聞きました。

帰りのバスの中で、会長さんが、「PR館があったり、学校ができたり、いい道路ができるからと言って、原発をいい物だと思ってはいけないよ」と言われました。

でも、私は、いいものじゃないかなーと、そっと考えました。だって、ひがいがあっても、じわじわくると聞いたので、「こわい」とはあんまり思えなかったのです。

海がきれいで、とてもすばらしかったので、いつまでもあのままであってほしいです。

福沢早知子（中段右から２人目）

新春放談

'87年への希望
神父おおいに語る

福音宣教は自己の刷新から始まる

―司祭の役目も考えてみよう―

出席者　越智　健（希望の家所長）
西野猛生（九条教会主任司祭）
J・ルーニィ（大和郡山教会主任司祭）
村上透磨（教区時報編集長）

司会　磯野真知子（編集部）
藤井陽子（編集部）

'87年、京都教区は創立50周年を迎え、また、福音宣教推進全国会議（ナイス）の第一回開催地にもなっています。それらを真に有意義なものとするために、年のスタートにあたって時報編集部では4人の司祭に自由に語り合っていただきました。今までを振り返り、何が欠けていたか、何が求められているか、私たちが忘れてはならない事は何なのか…。未来の夢も直視しなければならない現実も含め、おおいに語られた本音を、あなたにお届けします。

これからまず　やってみたいこと…

――京都教区のこれまでの現状をふまえ、'87年、教区がどのように歩み、何を優先的にしていかなければならないか、神父様方の考えてらっしゃるところを聞かせて下さい。

越智　僕は司教団からの基本方針、一つはまだキリストの食卓についていない人をもっと招くというのと、もう一つ、社会で抑圧されている人とのつながりを深めて学んでゆくということがありますが、キリストの食卓についてない人を招くということに関してはかなり体勢が整っているのではないかと思います。しかし、社会との交流についてはかなり単発的な傾向が強いと思うのです。それでその体勢づくりを整えたいと考えています。そのためには人材の発掘とか予算の面、統合してゆくための努力とか総合的な取り組みが必要だと思います。

西野　教会が社会と共に歩むということを今まではいつも教会の中で何かやっていく、教会の中に誘って、閉じこもってやるという場合が多いけれど、果たしてそういうことなのかなと僕は思うわけですね。本当に社会との交流、基本方針の②ということを見ていこうとすれば、発想の転換が必要だなと今考えています。例えば、希望の家のように地域の中に入りこんで働くとか。様々な市民グループの中に入って何かやっていくとか。そして、それを持ち寄って信仰の面から分かち合っていくとかできるのではないかと思いますね。

村上　我々の考え方としては、社会と共に歩むことの方を大切にしなければならないのではないか、と思うのですが、信徒の人達も司祭も含めてそれが果して教会の使命かすらわかっていない。つまり、社会と教会を離して考える人が多

いのではと思います。教会に行く、帰る、社会で働く…そういう二重生活をやってしまっているというところが強い。

それから、越知神父さんがキリストの食卓に招くことのほうはだいたいできていると言われましたが僕はまだまだできていないと思いますね。つまり、信徒一人一人が食卓を囲む人をつれてくるということ、一人一人が宣教者であることをまだ自覚していないという気がするのです。

ルーニィ　私もそう思います。私たちが地上で建設し、実現するのはやっぱり主の食卓を囲んだ家庭的な共同体です。しかし、私たちの内に福音宣教ということ自体が、理解されていません。だから教会に魅力がない。私は一番皆に感じてほしいことは、食卓を囲んでいる人は一つの心、一つの家族であるという自覚です。それと同時に、仲良くするだけじゃなく社会と共に歩む、社会の活動にクリスチャンじゃなくても善意を持ってやっている人と共に働く、それによって私たちは福音化される。社会の中で働いて弱い立場、貧しい人たちのニードに答えて、その現場で私たちは変えられると私は思っています。

西野猛生師
九条教会主任司祭　京都働く人の家担当

司祭の役目ってなんだろう…

村上　僕は司祭の役目とは何だろうかと思うんです。

僕が感じるのは戦争中、信者は信仰に生きるのは命がけだった。司祭がいなかったから教会の維持など全部やったわけです。ところが戦後、たくさんの司祭が来て下さり、今までやってきた仕事を司祭がみな取り上げてしまった。それによって信徒の人たちは受け身的になってしまったのではないでしょうか。

ルーニィ　マリスト会の方針が書かれている本の中で、司祭の第一の役目は、信徒の奉仕、カリスマを育てていく事。歴史の中で、教会は一人一人の持っている神さまからの賜物を育ててゆくことが苦手だったのです。

信徒や共同体が持っているカリスマを導き、養成指導する。なかなか時間のかかる事だけれど、教会にとって新しいチャレンジをする時だと思う。

村上　司祭が多すぎることは福音宣教にとっていいことなのかな？…と思うのですが。

ルーニィ　私もそれはあると思います。大変失礼なことかもしれませんが、司祭たちを見ていると、福音宣教を充分自覚してやっている司祭、現代社会における教会の指導者としてやっている司祭、あるいは昔の自分の王国を今だに支配している司祭と様々です。昔の教会は「信者の世話をする」という感じです。そうではなく、信徒と共に福音宣教するんです。我々司祭はそれを充分に自覚していなければならないと思います。

養成ということについては…

越知　僕は、司祭が多いとか少ないとかの問題ではなく、司祭は仕事を充分に発見していないと思う。司祭のすることはいっぱいあるんです。実際、今の京都教区の中で青年が教会に来ない、青年不在。特に、京都南部でね。これは一番の責任は司祭やと思います。教会の中の青年の養成の役割は司祭にある。そのへん、司祭同志で発見していく作業がいるんちゃうかなと思う。

西野　僕は今迷ってるんですけど、

日本の司教団の基本方針

1　私たちカトリック教会の一人ひとりが、宣教者として、まだキリストの食卓を囲んでいない人々に信仰の喜びを伝え、より多くの人を洗礼に導き、かれらとともに救いのみ業の協力者となる。

2　今日の日本の社会や文化の中には、すべて福音的な芽生えもあるが、多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧、差別している現実もある。私たちカトリック教会の全員が、このような「小さな人々」とともに、キリストの力でこの芽生えを育て、すべての人を大切にする社会と文化に変革する福音の担い手になる。

小教区を活発にしてゆくのに、司祭が盛り上げるのがいいのか、信徒の人が気づいてくれるのがいいのか…。盛り上げれば盛り上がるとは思うのですが、果して、それが大切なことなのかな…と考えるのです。

――青年の養成という話が出ましたが、信徒養成ということはとても必要なことだと思うのですが。

村上　僕としては司祭養成が一番されなければいけないと思う。シスターたちには学ぶ姿勢がでてきたけれど、神父というのは、自分も含めて、「全部わかっている、わかってる」と言って学ぼうとしていない。自分自身を変えていこうとしないところが問題だ。

ルーニィ　信徒養成ということはまだ始まっていないと言ってもいいくらいです。司祭がただ講習会や研修会に行かせたりすることだけが信徒養成だと言うのだったら、大きな間違いです。信徒養成は一生涯のことです。自分の使命を自覚し、めざめるためにいっしょに勉強する。実際の養成は自分の人生の歩みの中で、自分の持っているものを生かしながらキリスト者として成長してゆくことじゃないかと思います。

越知　健師
希望の家所長

教区の中のつながりは…

越知　僕はまわりで本当に人間が大事にされているか、考えてみるという動きが教会でいっぱい起ったらいいと思う。大事にされてないなら、では何が原因か…それが外国人登録法の問題に発展したりするわけでしょう。ちょっと社会がおかしいんじゃないかという疑問を持っていてこそ、共感共鳴できるわけで、日常、人間が大事にされているか…という掘り起こしが教会の中にいつもある、というのが教会だと思う。

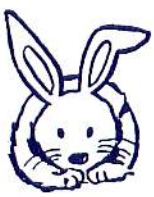
西野　養成されていくにはいろんな方法があったらいいと思うわけね。神様を知らない人でもいろいろな形で戦っている人がいる。そういう所に関わっていった体験というものを通して深めていけることが多いと思う。例えば、一回デモに行きましょうって誘えばそれがきっかけとなる場合もある。市内でも、いろんな所にいろんな講習会もあるわけなんですね。

越知　教会は捨てたものじゃないんですわ。やっぱり聖書読んだり、インフォメーション（情報）として体の中に〝隣人愛〟がしみ込んでいるから、何かが始まると広がってゆく。

　でも、それを単発的なものじゃなく、諸問題をいろんな関連を持って少しずつ根をはってゆくことが大事だと思うんです。ところが諸活動のネットワークがないから、みんな同じ問題をやってんのにバラバラで、一つの力にならない。

村上　小教区とかあらゆるネットワークとかがバラバラなわけ。教区の目標の実現のための努力とか歩み寄りとかもう少し必要だ。

ルーニィ　ここの教会と隣りの教会も知り合わない。ああ、同じカトリックかというくらいでね。



なにからできるだろう…

西野　地道なことから始めるんだったら、一度、自分の行っている教会じゃなくて他のとこへ行って下さい。そして、それをわかち合って下さい…と。そんな話がうちの教会で出てるんですけどね。組織とか行事にしばられないで、例えばある年は何もしない年を作ってみてもいいと思う。話し合う場は必要ですがね。

村上　ある年は洗礼者数にこだわらない年にして、信徒、司祭の生活を見直すとかね。主任司祭は統計を気にしすぎてる。

西野　思い切った試みができればいいね。

越知　司祭にも宿題を出して、司祭の新しい職務は何か探すとかね。

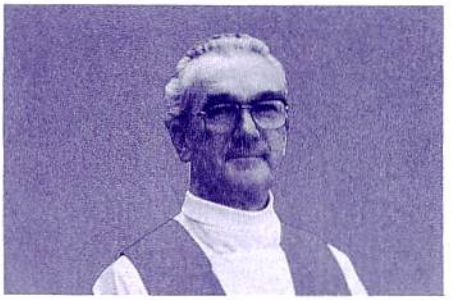
〈笑〉

西野　本当に人を大切にするのはどういう事なのかっていうことですね。司祭がしてはいけない部分

があるんじゃないかって思います。

ルーニィ　ある大きな教会に行った時、聖体拝領にだれも信徒の聖体奉仕者が出て来なかった。あとで、そこの司祭に聞くと「うちは司祭がいるから奉仕者は必要じゃない」という返事でした。熱心な司祭だけれど、まだ共同体づくりというのを理解していない。信徒の中にそれぞれのカリスマを持っているのに司祭がそれを生かしてあげられない。

　ニュージーランドのある教区では司祭に何週間か何ケ月、一斉に休ませて研修を受けさせる。準備として一年前からその時のために、信徒がどういうことをできるか学び、そして信徒で典礼ができるようにします。



J・ルーニィ師（マリスト会地区長）
大和郡山教会主任司祭

　大きなプラスがあります。司祭がいない間、信徒はやった!!という大きな喜びを味わえ、そして神父が帰って来て何かやろうとした時、大きな協力一致が生まれるのです。京都教区もそういう事をやったらいいと思う。

――何かの問題にいっしょになって取り組んでいくことで、お互いが養成されていくんじゃないかと思うのですが。

西野　具体的には、働きに来ているフィリピンの人のためのミサにかかわりながらフィリピンの国を知るとかね。

ルーニィ　何か毎年の目標があったらいいですね。今年はこの問題を考えてみようとか。

新しい年にむけて…

村上　福音宣教共同体といってもみな、まちまちなイメージを持っている。だから一人一人を大切にすることとはどういう事なのかを根本的に問い直してみる必要がある。それには聖書の中でキリストは我々にどう言われているか…ふり返らなければ。

西野　僕は司祭同志で話し合ってないというのが気になっています。司祭とか、シスターとか、信徒とかを越えた深いつながりみたいなのがどこまでできているかな。そこが大切な一つの出発点かなと思ってみたりするんですよ。〝出会い〟の大切さがぬけてしまうと形は共同体であっても、大切な心がぬけてしまう。司祭のやるべきことの時間をその中で作っていきたいですね。

村上透磨師
教区時報編集長

ルーニィ　今、私は教区の刷新のことを話していますが、自分の刷新が始まりなんだといつもすごく考えさせられるわけですね。どんな話をしても、どんなりっぱな計画があっても、本当の自分の刷新を考えていなければむなしい。教区や教会に期待していることを自分が具体的に実行に移したいです。分裂の中に一致を求めるなら自分が一致を守ろうとするとかね。地球における教会のためにできることは自分の刷新です。

村上　教会の役員会でも行事におわれ、教会とは何か?信仰とは何か?福音とは何か?という根本的な問題に全くふれられてません。何のために私たちは集っているのか、具体的に私たちが変えられるような話し合いをもっと考えなくちゃいけないと僕は思います。

越知　最後に話は少し変わるけど、社会にかかわる人の礼拝の部分が弱いと思うんですね。なぜかと言うと、既成のお祈りの内容がそぐわない、本当に現場の人の願いを組み入れたお祈りがない。社会を福音化してゆく情熱にあふれた典礼の祈りがあらへん。問題のかかわり、苦しみが祈りとなってゆくような祈り、典礼刷新の流れを私は熱望しております。

――どうもありがとうございました。

注　本文中の基本方針①・②はP7のカコミの中を参照。詳細は時報101号を御覧下さい。

'86京都・奈良ウォーカソン

あなたのあたたかい心を インド・インドネシアに 届けます

第8回 京都

例年どおり11月3日、参加者約700名の協力を得、感謝のうちに行うことができました。

↑よく参加してくれましたね（京）

第4回 奈良

ウォーカソンを終えて

京都教区に足なみをそろえて、始まった奈良県カトリック教会のウォーカソンも、今年で4回目、それも無事終えることができました。今年の四月、ウォーカソンに関して青年たちの間でその指針について大まかな計画を立て、司牧評議会に計ってもらい、実現したわけです。とはいえ、これだけ、大がかりな活動は、青年たちだけでまかなえるようなことはなく、会場設定、コースの安全確認、募金の回収に至るまで、種々なところで多勢の人に手を借していただきました。考えてみれば、ウォーカソンの目的は、このことであったかもしれません。ウォーカソンを通して信者が固く結びあい、貧困にあえぐ人々を助けること、このことがウォーカソンの目的ではないでしょうか。今年のウォーカソン参加者は328名、集まった募金は三、三二六、一四九円でした。

来年も力を合わせてがんばりましょう

奈良教会　植田道則

↑さぁ、出発（京）

神様……どうかおしえて下さい

私たちを愛して下さる神様、地球に住んでいる人はみな兄弟です。なのに、どうして飢え、病気、そして差別で苦しまなくてはならない兄弟があるのですか。私たちはどうすれば、この兄弟たちをすくうことができるのですか。どうかおしえて下さい。

神様、私たちはこれから12kmの道を歩きます。この道を歩くことにより、どうすれば、飢えや病気、差別で苦しむ人たちの問題を本当に解決することができるのかをおしえて下さい。

また、どうすれば、イエズス様とともに歩むことができるのかをおしえて下さい。

そして、全世界の飢え、病気、差別で苦しんでいる人や、今日、スポンサーになって下さった方の上に生きる力をおあたえ下さい。

お祈りする
朋佳ちゃん（京）

プラカードかた手に（奈良）

↑受付けどうもありがとう（奈）

広がるウォーカソンの輪
津・西舞鶴でも

津・セント・ヨゼフ女子学園

10月25日(土)、約250名の生徒および教職員が参加し無事に終わることができました。賛同して下さったスポンサーの数は約1500名を越え、集められたお金は全部で約65万円でした。

このお金は、カロンドレットの聖ヨゼフ修道会を通して直接インド・ペルー・フィリピンの方々に送らせて頂きます。

「天気のよい日にウォーカソンすることは、とてもすがすがしい気持ちになる」と生徒の声。

来年もまた続けていくことができればと学校長をはじめ考えております。なお、当日歩きました生徒全員にシンボルマークのカード、バッチを配りました。

シンボルマーク

西舞鶴・日星女子高等学校

11月8日、生徒・職員200余名が参加し、今年も無事ウォーカソンができた。

年々、参加者も募金額も増え、地元の新聞にも、その様子を取り上げてもらっている。

今年は日星高校独自の目標を持つことができた。

ウォーカソンの募金約50万円は、韓国・慶州にある在韓日本老婦人の収容施設「ナザレ園」に、来年修学旅行の時に届けることにしている。

「ナザレ園」は、金牧師さんの経営による日本人老婦人のための施設です。

ここに収容されている方々は、第二次大戦中、親の反対を押し切り韓国の方と結婚し、朝鮮半島に渡り戦後、反日思想の中で苦しみ、身寄りをなくした方々です。

「ナザレ園」は、韓国や日本政府からの正式な援助はなく、寄付に頼る不安定な経営状態です。

自由参加ながらたくさんの人々が10kmを歩きました。この小さな犠牲によって愛の交流が深まることを祈ります。

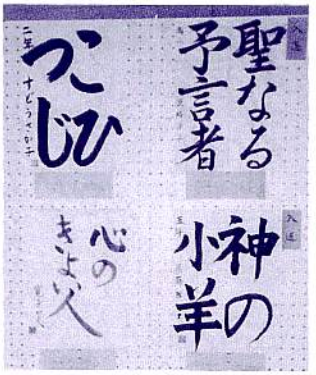
聖書週間　みことばによる喜びの輪

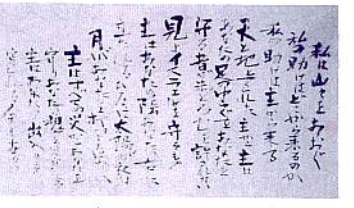
みことば書道展

今年も、多くの作品が届きました。今回は、写経的なものもあり、応募して下さる方々の意気込みを感じました。

また、「黙想した時、非常に心に残ったみことばを書きました」「心のささえとなっているみことばを感謝しながら書きました」といわれる応募者の方もありました。

生活の中で本当に生かされているみことば。また来年も、皆様の力作をお待ちしています。どうぞ気軽に出品して下さい。




みことばを深めるために（写経）

朗読コンテスト

成人の部（高校生以上）1名、児童の部（小・中学生）9名、と今年は参加者も少なく、例年にないひっそりとしたコンテストとなりました。

しかし、今年も司教賞の該当者はありませんでしたが、大きな声で、しっかりと朗読でき大変よかったと思います。

まだ、出場されていない方、来年はぜひ挑戦してみて下さい。参加お待ちしています。

お知らせ

教区スケジュール

12月
1日　司祭評定例会議
14日　レジオ・マリエ年次親睦会
15日　京都南部司祭月例会
　'Xマス・タブロー
　（津セントセゼフ女子学園）
19日　SVP京都中央理事会
24日　'Xマス・タブロー（洛星）
　'Xマス市民の集い（河原町教会）
24日～25日　クリスマス大祝日
26日　メリノール会クリスマス会（唐崎M・ハウス）
28～30日　三重地区青年エンカウンター（津研宗館）
29日　京都南部司祭月例会

'87年1月
1日　正月元旦ミサ

▼平和を考える集いを　あなたの小教区でも

'86年平和の歩み講演会のテープを教理センターで貸し出しております。身近な所から平和の輪を広げてゆきましょう。
問い合わせ　二条オフィス（211）3768

クリスマス聖劇

日時　12月21日(日)　AM10時ミサ中
場所　西院カトリック教会
★その日の「みことば」として朗読の所で聖劇が入ります。子供たちは自分たちの役割について勉強し、懸命に取り組んでいます。是非一度見て下さい。

―市民クリスマスの集い―

日時　12月24日(水)　PM　時～　時

愛と平和のクリスマスコーナー

12月11日(木)～25日(水)
四条河原町阪急百貨店1階
12月18日(木)～25日(水)
千里阪急百貨店4階

★クリスマスの真の喜び、愛と平和を多くの人々に伝えるため馬小屋の模型を中心にクリスマスコーナーを右記で開催します。人々とのかかわりの中で福音宣教をはたしていくためにクリスマスはすばらしい機会だと思います。
♥コーナーでは聖書、クリスマス絵本、カード、カセットテープ、スライド、ビデオ、馬小屋セットなどを取り揃えて皆様のお出を待ちしております。

教区補助金申請の時期です

只今、超小教区宣教活動のための教区補助金申請の時期です。この補助金を受けたい団体は、'87年1月15日　までに申請して下さい。詳しくは教会宛のお知らせをご覧下さい。（補助金審査委員会）

募集

編集スタッフ（若干名）

編集に興味のある方、お手伝い下さいませんか。
年齢　20歳～40歳
時間　10時～17時
（日数・時間は面談の上）
〒606 京都市左京区仁王門通新高倉東入　京都カトリック教理センター
「時報編集部」
☎075(752)0057

新年を迎え、今年こそは発行日を守ろうと決意した。でも、人手不足でどうしようもありません。編集に興味のある方たすけて下さい。(い)

車検　カローラ　サニー　クラス　96,250円(全費用)～
50余りのマスコミが絶賛!!

新車・中古車も市価より5～15万は安くなります
Auto Project
車検代行サービス（宇治教会・松浦博司）
京都営業所 ☎075-612-3504
京都市伏見区桃山町丹後33-87

＝祈りのこもった素朴な味＝
送ってよろこばれる
修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒
（純粋マスカット）
和洋酒
タキノ
〒604
京都市中京区錦小路通烏丸東入
TEL　(221)0976－7

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貸物一式（仏式可）
聖ヨゼフ葬典社
パウロ　杉下安雄
（西院教会所属）
京都市右京区西院寿町23
☎　(075)312－7829